

# 地域における TNTP(Traffic Network Terminal Point)の

## 重要性-国内最先端：バスタ新宿を事例に-

経営学部 経営学科 梅村ゼミ  
B4R11125 塚川 巧

### 【卒業論文概要】

昨今、地方創生や地域活性化の手法は、これまで取られてきた「都市の繁栄」という観点からは離れつつある。我が国においては、超高齢社会や出生率の低下から人口減少が始まっており、地方自治体レベルでの「都市の存続」というものが掲げられるようになってきている。こうした現状の中、「交通」の持つ役割もまた変化の中にあり、その行く末は今後の地方創生や地域活性化において、非常に重要な意味を持つのではないかと考えた。

本論文の目的は、これまで述べられてきた「交通結節点」とは一線を画す国内最先端交通拠点「バスタ新宿」を、新しく Traffic Network Terminal Point(略称 TNTP)と定義し、その評価と重要性について検討することである。

まず、バスタ新宿を実際に訪れ、その概要と現況を確認した。次に先行研究などから、バスタ新宿の建設を含んだ「新宿駅南口地区基盤整備事業」の内容と目的を確認し、整備事業とバスタ新宿が何をもたらしたのかの考察を行った。また、研究対象が新宿駅という特殊な交通拠点に付随しているため、新宿駅の現状等についても確認を行った。加えて、バスタ新宿がバスターミナルであるため、バス交通に与える影響を調査する目的で、公益社団法人日本バス協会常務理事にインタビュー調査をご協力賜った。

結果としてバスタ新宿は、交通結節点として新宿駅利用者に向けた新しい利便性の形を提供しただけではない。TNTP として、バス業界へも一石を投じており、新宿と他都市との結びつきをより強固なものとするに至っている。しかし、バスタは完成から未だ日が浅く、その真価が問われるのは、バスタ新宿に続く TNTP が国内に生まれてくるかどうかにあると考えられる。バスタ新宿の起こした波が、如何様に伝播していくのかについて検討できなかったことは、今後の課題となっている。